

# 研究・設備開発に注力

## 電炉ダストリサイクル設備、開発最終段階

鉄鋼・非鉄金属加熱炉や熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市中央区、社長・尾崎彰氏）は、ゼロエミッションやカーボンニュートラル（CN）に即した研究・設備開発に注力している。今年11月に開設する新研究所「熱技術創造センター」（大阪府堺市）では社会ニーズに沿った新商品などを研究開発する方針。

のCO<sub>2</sub>排出量削減に一度には売上高40億円を向けた研究開発を進めている。同社は熱技術創造センターでCNなど社会ニーズに適合する技術や設備を市場投入していく。電炉ダストを含めた新商品の開発・販売で2026年

度には売上高40億円を目指している。

尾崎社長は「環境対策に伴う設備の引き合いは増えており開発を急いでいる。11月から新研究所でさらに開発をスピードアップさせる」とし「アンモニ

アが安定的に生産され価格が落ち着くことを見越して、設備の燃料をLNGなどからアン

モニアでも代替できるよう開発を進めていく。当社の強みであるアンモニア燃焼技術を

活用してCN・ゼロエミッションにより適した新商品を創造していく」と話す。

現在、ゼロエミッションに関する研究として、電炉ダストリサイクル設備が開発最終段階にある。同設備は、電気炉で鉄スクラップを再溶解する時に発生する電炉ダストから亜鉛を分離して回収する。通常、電炉ダストは中間処理業者に委託して処分されているが、同装置により濃度の高い亜鉛を回収することで再資源化することが可能となる。

電炉ダストのほか、自動車業界のEV化に向けた取り組みが活発になっている中で、廃リチウムイオン電池やタイヤゴムなどの資源循環プロセスを確立するための研究開発を進めている。また、既存商品をブラッシュアップするとともに新機能を付与した高効率な熱処理炉を開発している。CNでは、鉄鋼向けの大規模な燃焼式工業炉および燃焼機器から